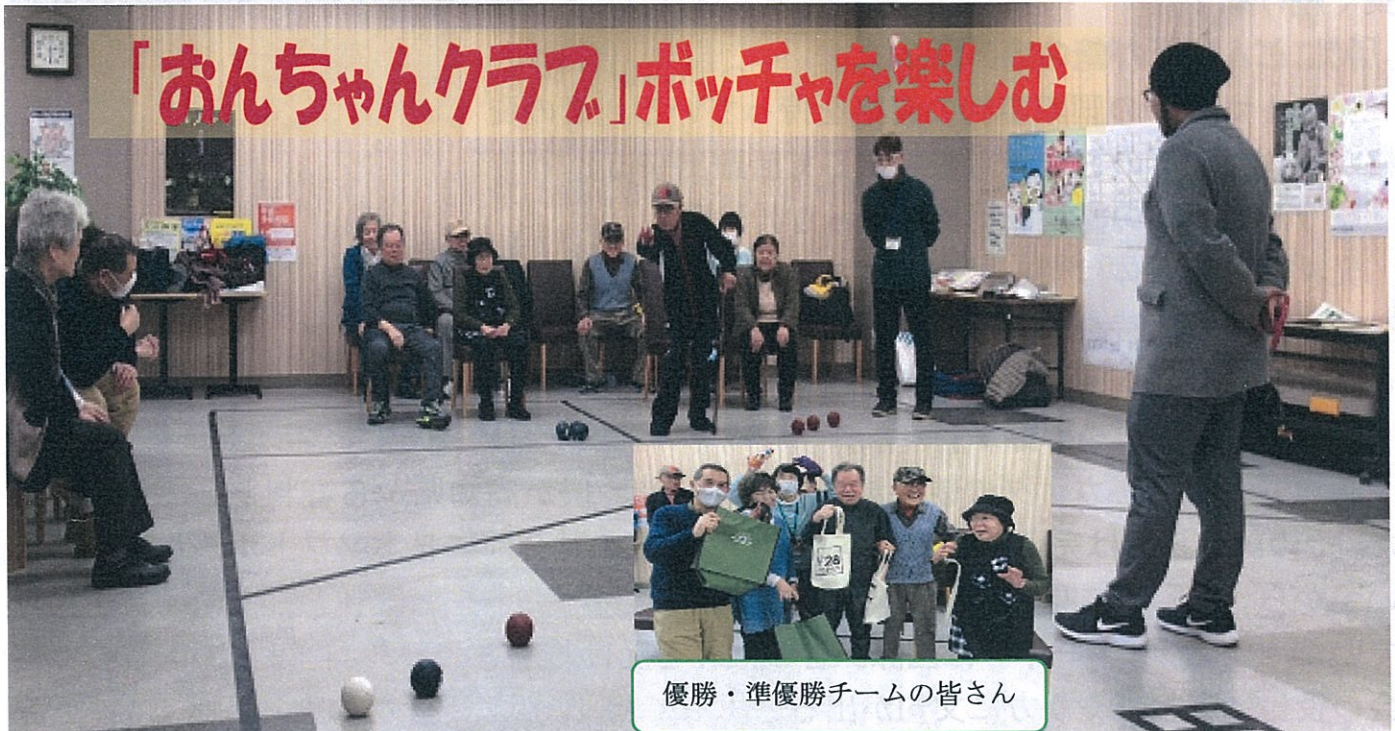


旭 やるかい ニュース

No.1

2019. 2. 22

発行: 旭やるかい幹事会
 【事務局】高知市西部地域
 高齢者支援センター旭出張所
 TEL088-843-5171



優勝・準優勝チームの皆さん

ボッチャとは、障害があってもなくても、いつでも・だれでも・どこでも出来るユニバーサルスポーツです。赤・青のカラーボールを投げたり転がしたりして、白いジャックボール（目標球）にいかに近づけるかを競う競技。パラリンピックの正式種目です。1月25日イオン高知旭町店2階おらんく広場で開催しました。これからも定期的に「ボッチャをやりたいね」という声があり、会場を検討中です。

2月3日の節分に、旭地域で『鬼の福分け』

NPO アテラーノ旭が「地域の皆さんとつながりたい・困っていたら声をかけてほしい」という想いで始めたイベントも今年で12回目！地域のケアマネさんや大学生、民生委員さんの協力もあり550個のお菓子や豆を配りました。近隣の住民にはすっかりお馴染みになり「今年も待ちよった」と心待ちにしてくれています。



俺の自慢教えちゃお。



「俺の自慢を一言で言うと？」

ソフトボールの審判を昭和45年から40年間の間、長く続けた！

「特にどんな所が俺の凄い所？」

ソフトボールの国際審判の資格を持っている。この資格があれば世界のどこでも審判として活躍出来る。

「ソフトボールの審判を始めたきっかけは？」

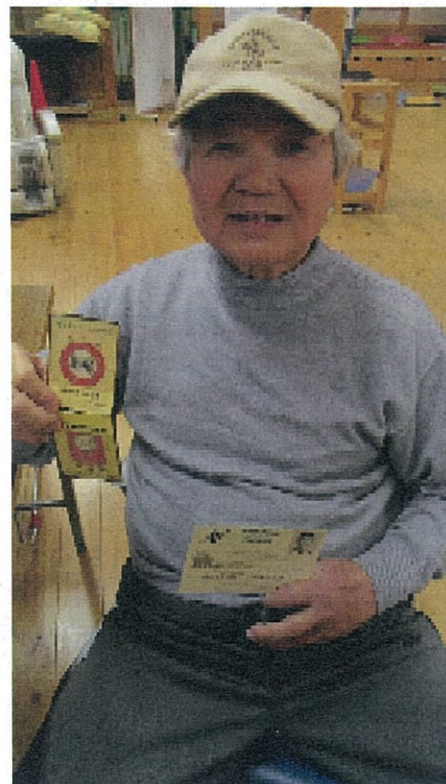
元々プレー自体は遊びでやって、たまたま別の試合を観に行っていた時、知り合いに「審判をやってみないか」と声を掛けられ審判をやった事がきっかけ。

「印象に残っている事は？」

高知県で日本とカナダの親善試合があった時、僕が高知県から審判として代表で出た。その試合自体は完全試合で日本が負けた。この試合前に日本ソフトボール協会の偉い手から「国際的に見て日本はストライクゾーンが高い。」と審判としての助言を受けていた。国内のプレーヤーは国際試合の洗礼を受ける形となった。僕は後の反省会で協会の役員に審判のやり方に文句が出ると思った。しかしカナダの審判長から「JAPANの審判は誰だ？」と協会が問われ、僕だと知ると「お前は日本一の審判だ！ナイス審判！」と絶賛された。国際的に認められ嬉しかった。

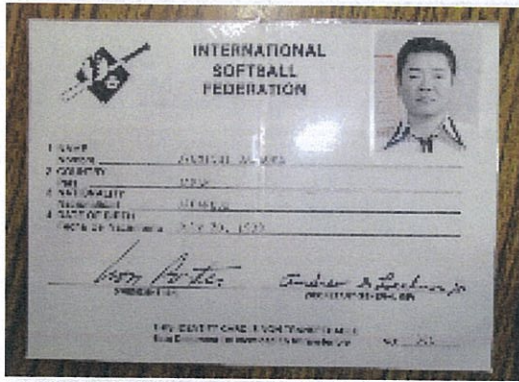
「審判を辞めた経緯は？」

昭和60年に1回目の脳出血をやり、障害者となったが審判も仕事（ガラス工事）も続けた。2回目の脳出血の後も大きな大会で審判をしていた。高知県ソフトボール協会から「おまえがおらないかん！」と今まで高知県には副審判長というポジションが無かったが自分の為に作ってくれた。周囲からも自分が必要と辞めさせてはくれなかったが、ありがたい事だと思っている。75歳を過ぎ今までもあった後遺症の左足が限界であると感じ、自ら審判から身を引いていった。



「ボッチャとの出会い」

デイサービスを利用し始め、同じ日を利用している男性から「男のサロン」を紹介してもらった。男のサロンで「ボッチャの世界大会がTVでやるき観てみいや」と言われ興味本位で観たところ「これは凄いな！」と思った。日本対韓国戦で結果は日本が負けたが、勝敗よりも障害者でも凄いプレーが出来て凄い技術で対戦しておりその姿



を見て「やりたい！！」と憧れの様なものを感じた。男のサロンで実際にポッチャをプレーし「やるからには深く理解しルールも知りたい！」と審判魂に火がついた。

「これだけは誰にも負けない！」

俺は審判の技術は誰にも負けない！

「これからの目標は？」

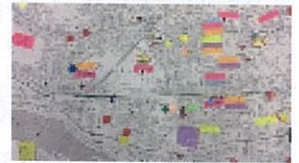


ソフトの次は今「男のサロン」で一緒にやってる仲間達と、ポッチャで大会に出て活躍したいなあ！

たとえ病気になっても前を向いて力強く歩いていく笹岡氏。長年ソフトボールを愛した男の熱い魂を感じた。ソフトボールは出来なくなったがスポーツマン魂は燃え続けており次はポッチャで大活躍だ！！ 旭出張所・籠尾より

旭のつながりマップとコラボして

旭小学校の安全マップ作りに参加



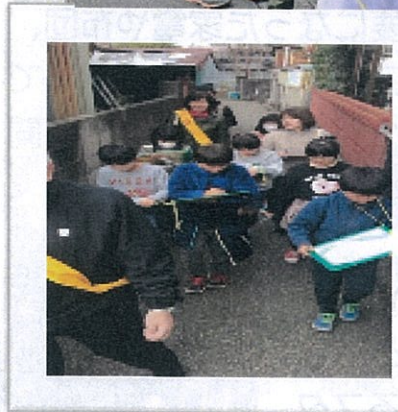
旭小児童(高知市旭町)と住民と協力しながら歩く

旭小学校(高知市本やるかい)も「旭やるかい」の4年生頃余念「合いマップ」を作った。7日、災害時や通学時、おりに、今回初めて一緒に危険箇所を記したに地図作りをする事。「旭やるかいマップ」になった。作成するが、地在住、児童と住民らほら組民ら約30人と通学路に分かれ、通学路や遊び場を点検した。旭小では4年前から、散策、児童の可能性が児童が「安全マップ」あるコンクリート歩道や作成している。これと見通しが無い交差点、は別に、住民組織「旭人目が届きにくい公園

安全マップ 住民と作成

旭小児童 地域歩き点検

なを地図に書き込んだ。路線バスが入りよった。児童から「危険を感じた時に駆け込めたい」とも即席の家が。旭小の江崎弘明校長は「意外に少ない」と驚きは「地図作りを通し、上があると、住民は「商地域の方と入れ合え店が通り、マンションた。たぐさるの目で見が増え、日中に家にい守つても大丈夫と子どもが減っている」ともが言つ」と話して返答「これは好結果いた。(早崎原之



旭のつながりマップを医療生協旭南・旭西支部と高齢者支援センター・高知市社協や住民と3年にわたり作成し、これまでの「旭やるかい」でも紹介しました。昨年も旭小学校4年生と旭こどもマップを一緒に作りましたが、今回は安全マップを作ることになり、2/7午後、5つのルートに分かれて地域を歩いてチェックをしました。次の日高知新聞に掲載されました。参加された「旭やるかい」のみなさん、旭の住民の皆さんありがとうございました。

旭地域の生活支援を行う団体 紹介①

NPO アテラーノ旭

① 活動内容

〈まちのお茶の間〉

メニュー コーヒー250円

スモールコーヒー130円

日替わり定食 550円

ケーキ 200円



常連さん同士の話やスタッフとの会話も楽しいまちの居場所になっています。

〈食のおたすけ〉

白米弁当 580円

玄米弁当 630円

おかずセット 530円

毎日平均して昼食 40食、夕食 100食を高齢者宅へ配達しています。

〈やさしさのおたすけ〉

1時間 1600円でちょっとした家事をお手伝いしています。



お気軽にお越しください！

② 会員募集！

賛助会員 1口 500円/年 個人会員 2000円/年 団体会員 5000円/年

アテラーノに申込書があります。会員になると「あてらーの新聞」が届きます。

少しでも応援したいなと思ったそこのアナタ！賛助会員になりませんか？

③ あなたの不要なものは誰かの必要なものかもしれない。

アテラーノ旭では転居や施設入所、終活などによって不要になった家電や布団、衣類などをお預かりしています。高齢者支援センターやケアマネージャーを通じて困っている人に届けています。不要なものはありませんか？ また、古紙や古新聞も回収しリサイクルしています。

④ 理事長山中さんの想い

お弁当を配っていると「さみしい」と言われる高齢者が多いです。皆あやっぱり誰かとつながっていたいんですよね。「ちょっとでも地域の人のかになりたい」という想いに共感して共に奮闘するスタッフに支えられています。「男性の喫茶店」「子育てママの居場所」などなどいろんなことをやりたいと思っているけど…身体がついていけない。誰か後継者おらんろうか？と思ひ悩む日々。

「旭やるかい」ではいろんな団体とつながって、アテラーノだけでは出来ないことも一緒に考えていけます。皆でつながりましょう！

お問合せはアテラーノ旭まで！ 高知市元町44 Tel.873-1082

